

もなく廢棄し、その作品は現に之を見ることを得ぬ。叙上の順序は主として享保五年兼若家の書上に據つたものであるが、それには越中守高平及び景平の初銘が兼若であつたことを載せて居らぬ。即ち又助兼若を以て改銘せぬ兼若の初代と見るのである。世に前記四代四郎右衛門兼若の作と認むべきものに、賀州住二代兼若延寶五年八月吉日と銘じたものを見るのは、この意味に於ける二代であらう。

カネヲカ 兼岡 加賀の刀工。 加州住炭宮一王兼岡と切る。元祿頃。

カノ 鹿野 珠洲郡飯田郷に屬する部落。貞享二年鶴岡妙嚴寺書上に『越後勢黒龍長能州奥郡へ責入、珠洲郡之内川尻村に在城之處、畠山殿衆濫井遊佐・神保・長・三宅、此五人衆七尾より責出、珠洲郡鹿野濱にて御合戦候得共、打負候而御引取候。』と見え、又能登名跡志には、『鹿野村近し。恒方・友末など、て百姓あり。』とある。鹿野は明治中に至り本江寺と併せて野々江と改めた。

カノウエツコブンシユウ 加能越古文聚 五十一冊。明治廿二年森田平次著。一に加能古文叢ともいひ、加能越三國に關する古文書を、年曆の叙次に隨うて輯録し、その文書に見える事實と地名とを考證して附記したものである。文書の時代は神龜・天平から文祿・慶長に至るものを主とする。

カノウエツサンシユウシヨゴウソクセキ 加能越三州諸郷村籍 ↓サンシユウシヨゴウソクセキ 三州諸郷村籍。
カノウエツサンシユウチリシコウ 加能越三州地理志稿 ↓サンシユウチリシコウ 三州地理志稿。

カネ—カノ

カノウエツサンブツカキアゲテヨウ 加能越産物書上帳 領内郡方からその産物を取調べて書出したものを、更に整理して一國一冊とする。幕府が庶物類纂の殘編を編纂する資料に供したもので、元文二年高島金左衛門・行山傳左衛門の名が記され、二人は藩の産物方主附である。↓カガブツサンシ 加賀物産志。ノウシユウブツサンシ 能州物産志。
カノウエツサンブツキ 加能越産物記 八冊。三州諸産物方主附村井又兵衛長世の自記である。

カノウエツシキナイトウキユウシヤキ 加能越式内等舊社記 ↓シキナイトウキユウシヤキ 式内等舊社記。
カノウエツシゾクテン 加能越氏族傳 六冊。森田平次著。記・姓氏録等に見えた加能越三州の氏族を挙げ、その子孫の文獻に見えたるもの、略傳を載せてある。
カノウエツフジヨニヌライキ 加能越扶助人由來記 五冊。内題には郡方扶助人並他國町人扶持遺者由緒寄帳とある。貞享三年五月前田綱紀が、菩提所にあらざる寺院、及び社家・宗人・町人百姓等に扶持を給しある者の由緒書上を命じたるに對し、彼等の提出した帳を集めたものである。

カノウエツリシヨウエイシヨキ 加能越里正由緒記 四冊。内題に高德院様より御郡中十村百姓に御扶持被下 來者共由緒帳とあつて、吉野村源次郎・佐良村九兵衛・津幡村甚丞(以上加賀)、澤河村田畑兵衛(以上越中) 相村彌五郎・中川村太郎右衛門・菅原村行長・土橋村新兵衛・中島村興一・粟藏村彦丞・中居村三右衛門・大澤村内記・諸橋村次郎兵衛・道

下村三郎左衛門・鹿野村藤右衛門・木住村四郎兵衛・大谷村頼兼・若山村延武・鹿野村恒方・上戸村貞頼・小山村高右近・荒屋村三郎左衛門・皆月村彦(以上能登)の子孫が貞享二年改作所に提出した書上を集めてあり、田畑兵衛の外越中の部を缺如して居る。
カノウチ 狩野氏 参考太平記金勝院本に、『加賀國大聖寺、城に狩野の一黨・福田・敷地・山岸・上木の者共官方として橋籠。』白山宮莊殿講中記録文明六年の條に、『守護代額熊夜乃殿、與力澤井・阿曾・狩野伊賀入道、此面々は幸千代殿方。』長享元年常徳院殿江州動座着到記に、『加州倉光次郎同大内修理亮多々良狩野松壽云々。』など見え、是等の人々は狩野の一黨が江沼郡菅生の神主である外本居を明らかにせぬ。

カノゲンタロウ 鹿野源太郎 江沼郡小塩辻の人。源太郎同郡中田・長谷田・上原田・塚田等即ち紙谷四ヶ村に灌漑せんと欲し、慶應三年七月大聖寺藩の許可を得、大聖寺川の上流風谷から中田に至る五千三百餘間の難工事を敢行し、七十三町餘の美田を得たが、その經費は殆ど自辨する所であつた。明治三十年十月歿。

カノコシロ 鹿野小四郎 父は小右衛門、兄は興四郎と稱し、江沼郡吉崎に住して廻船を業とした。小四郎は幼少より兄に伴はれて諸州を航海し、肝煎・船裁許を兼ねる手振十村であつたが、其の後大聖寺藩内小塩辻の與左衛門の跡を受けて組附十村に任せられた。小四郎筆札算勘を能くし、藩から重用せられたが、病により職を辭し、寶永の末年に歿した。正徳二年百姓一揆の騒動に際し農民の襲はんとした時は、其の子源太郎の時代であつた。

カノサダヒロ 狩野貞寛 通稱榮太郎。狩野氏十代恒方貞清の子。初め鳳至郡宇津津に住し、後藤波に移つた。嘗て算學を江戸の内田五觀に學び、文政十三年正月白山比咩神社に奉願した。明治十七年正月廿九日享年七十二歳で歿。

カノソクヨ 狩野即譽 江沼郡小塩辻の二子。伯國の弟。諱は宗信、即譽はその號である。家法を傳へて講技を能くし、前田綱紀から祿を給せられて、加賀の即譽と稱せられた。
カノソクヨ 狩野即譽 畫家。伯國の孫で豊信と稱した。天保頃の人、歿年等は詳かでない。前項の即譽と別人である。
カノタニガハ かの谷川 石川郡二俣領大清水といふ所から流出で、同領下ほうけにて犀川に落合ふ。水程約四程。

カノサダキヨ 狩野貞清 珠洲郡の十村役で、宇津津に住んだ。本姓狩野氏。恒方を通稱とし、その十代が貞清であつた。貞清、富山の高木允胤の門に入つて算學を學び、地方有志に教授した。慶應二年十一月廿八日歿。享年八十。

カノウエキ 狩野宗益 景信と稱し、號は眞流齋。金澤に住し、狩野派の講を善くした。明治三年十月三日歿。
カノソクヨ 狩野即譽 江戸の畫人。友益の二子。伯國の弟。諱は宗信、即譽はその號である。家法を傳へて講技を能くし、前田綱紀から祿を給せられて、加賀の即譽と稱せられた。

カノソクヨ 狩野即譽 畫家。伯國の孫で豊信と稱した。天保頃の人、歿年等は詳かでない。前項の即譽と別人である。
カノタニガハ かの谷川 石川郡二俣領大清水といふ所から流出で、同領下ほうけにて犀川に落合ふ。水程約四程。

カノタンユウ 狩野探幽 名は守信、江戸の畫人。蕪臺風雅によれば、寛永中前田利常の招に應じ、來つて加賀藩に止ること數月、その間數百幀を圖した。金澤天徳院・越中瑞龍寺その他多く探幽の畫を存したものは是が爲であるといふ。